



青森県感染症発生情報
(2026年第9週)

I 第9週の発生動向 (2026/2/23~2026/3/1)

- インフルエンザについては、下北保健所管内の定点当たり報告数が新たに**警報レベル**となり、三戸+八戸市保健所管内及び上北保健所管内で**警報**が継続しています。また、東津軽+青森市保健所管内、中南保健所管内及び西北保健所管内で**注意報**が継続しています。県全体の定点当たり報告数は減少していますが、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防も兼ねて、ワクチン接種を含めた基本的な感染対策の徹底をお願いします。季節性インフルエンザの発生状況・型別等の情報については、県庁HP「インフルエンザに注意しましょう!」をご覧ください。☞[インフルエンザに注意しましょう! \(県保健衛生課\)](#)
- 水痘については、中南保健所管内及び西北保健所管内の**注意報**は**解除**となりました。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「突発性発しん」です。

最終ページに掲載しています。

II 第9週五類定点把握象疾患

※記載データは、速報値です。

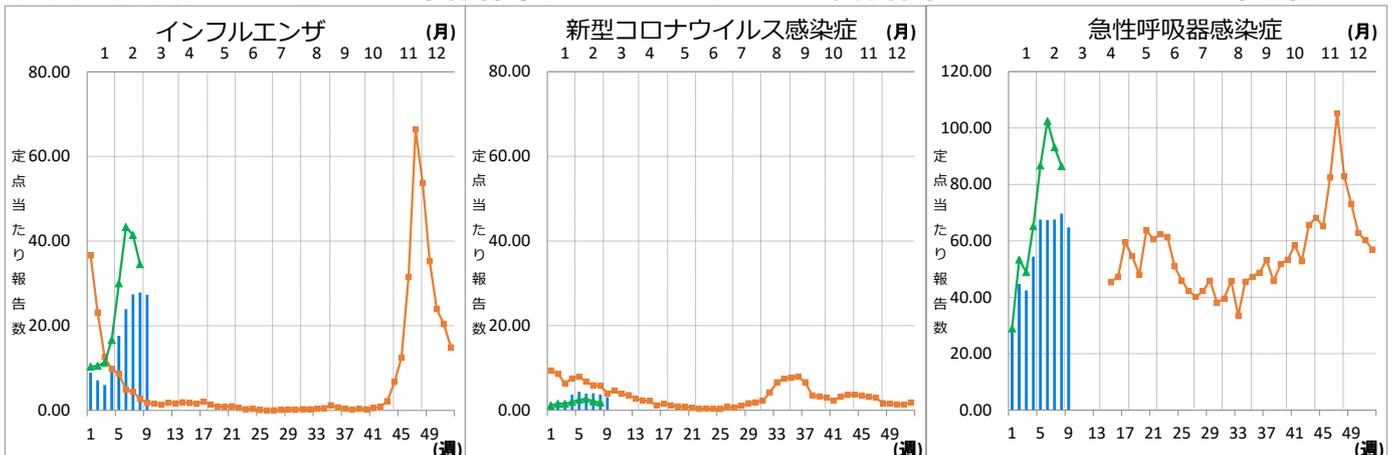
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

■は警報、■は注意報。「空欄」：患者報告無し。

	東青 (東津軽+青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週からの増減
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性呼吸器感染症															
インフルエンザ	277	25.18	165	16.50	303	30.30	158	26.33	323	35.89	193	32.17	1419	27.29	-29
新型コロナウイルス感染症	18	1.64	19	1.90	44	4.40	33	5.50	24	2.67	25	4.17	163	3.13	-32
急性呼吸器感染症	966	87.82	464	46.40	547	54.70	290	48.33	660	73.33	441	73.50	3368	64.77	-255
小児科															
RSウイルス感染症	2	0.33			1	0.14	1	0.20					4	0.12	-4
咽頭結膜熱	2	0.33			8	1.14	1	0.20					11	0.32	-6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	2.00	20	3.33	14	2.00	4	0.80	6	1.00	5	1.25	61	1.79	-7
感染性胃腸炎	31	5.17	10	1.67	32	4.57	18	3.60	6	1.00	3	0.75	100	2.94	9
水痘	1	0.17	2	0.33							1	0.25	4	0.12	-17
手足口病	1	0.17											1	0.03	0
伝染性紅斑							1	0.20					1	0.03	0
突発性発しん	2	0.33			2	0.29	1	0.20	2	0.33			7	0.21	4
ヘルパンギーナ															0
流行性耳下腺炎															0
眼科															
急性出血性結膜炎															0
流行性角結膜炎															0
基幹															
感染性胃腸炎(ロウイルス)															0
クラミジア肺炎															0
細菌性髄膜炎															-2
マイコプラズマ肺炎											3	3.00	3	0.50	-2
無菌性髄膜炎															0

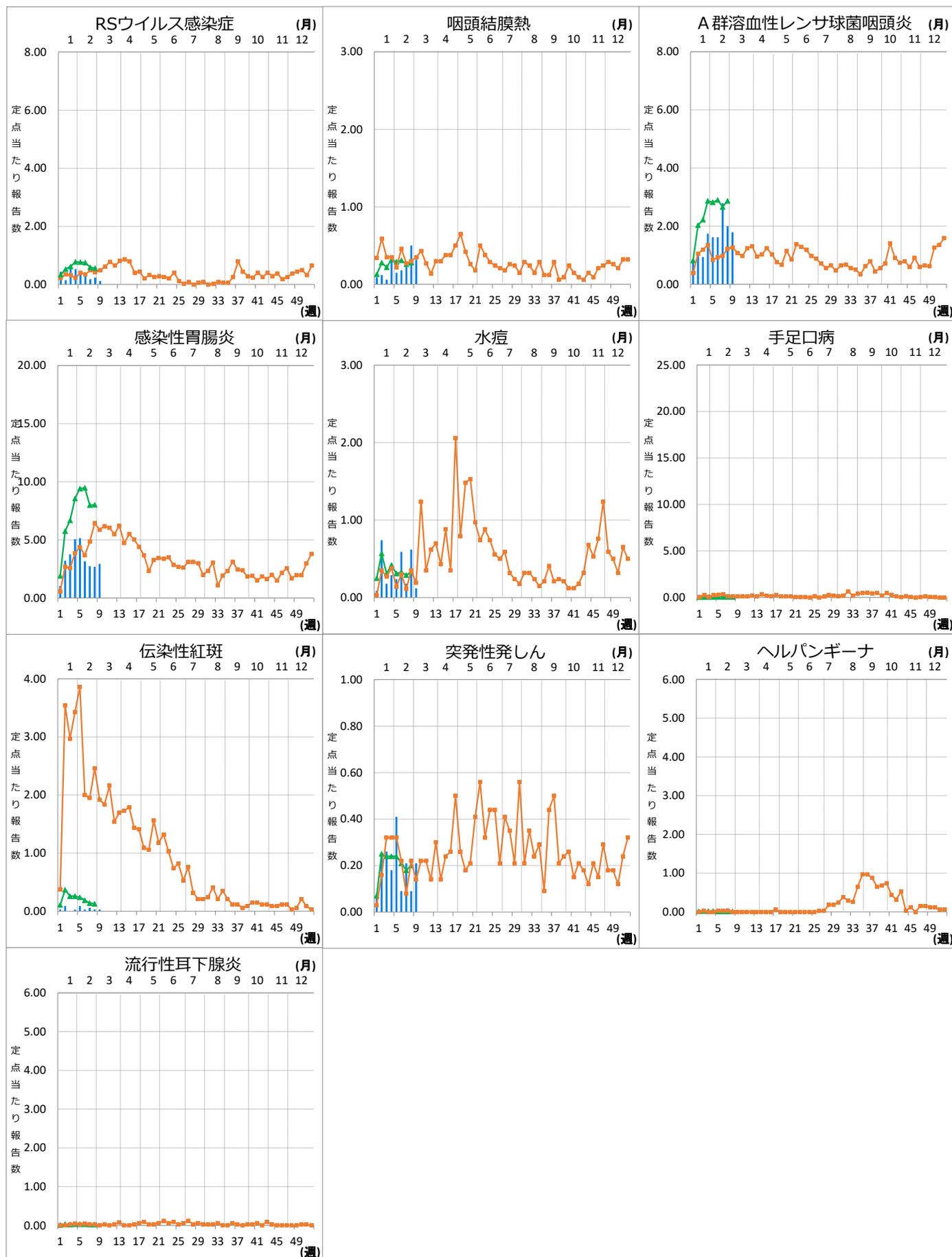
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第9週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ☞ —■—は2026年青森県、 ■—■は2025年青森県、 ▲—▲は2026年全国



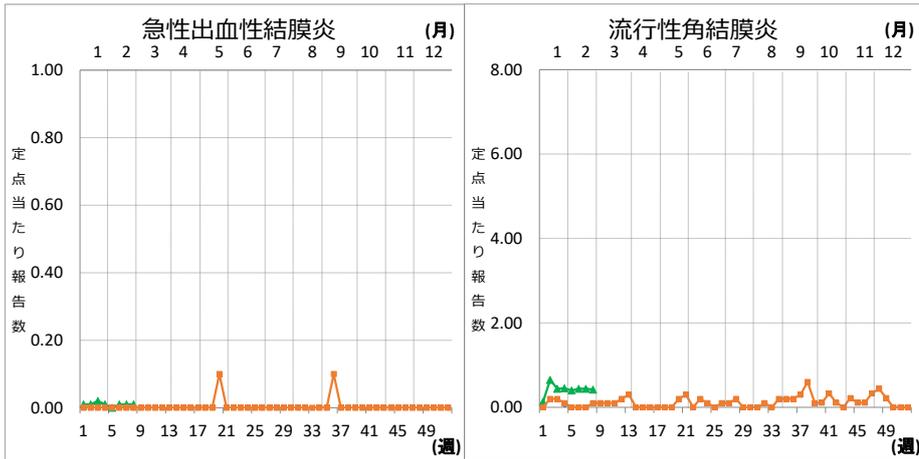
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第9週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



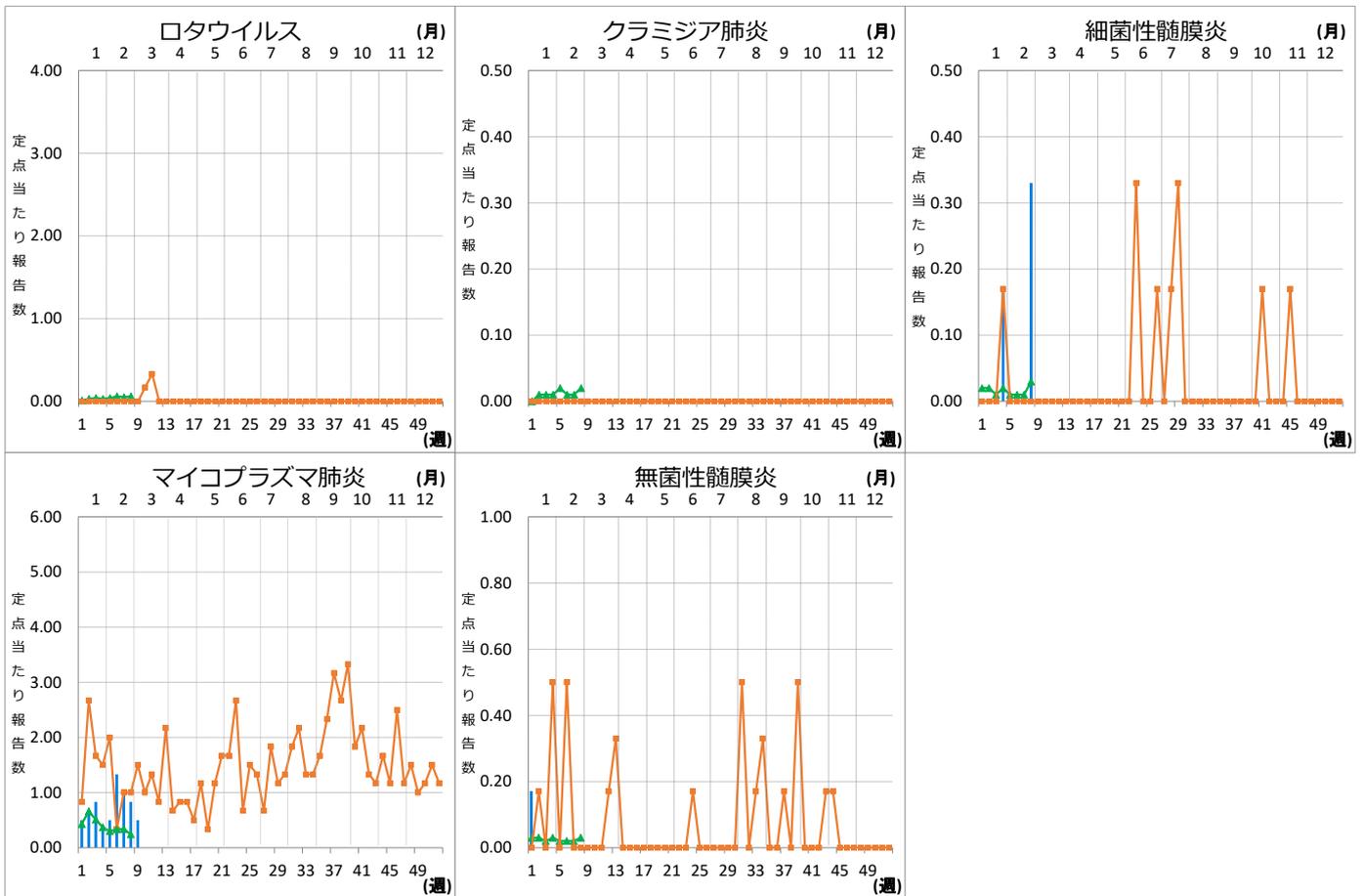
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第9週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第9週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



VII 急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体検出情報

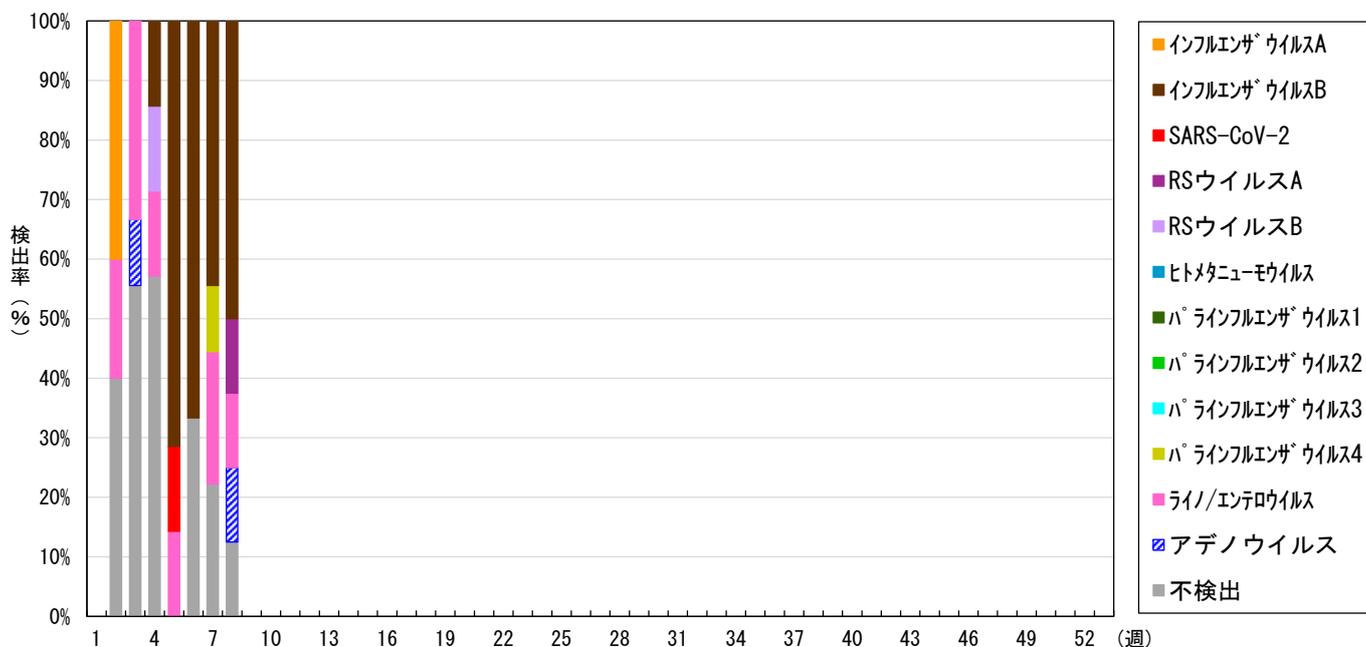
(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第2週～9週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週
提出検体数	5	9	7	7	6	8	7	11
インフルエンザウイルスA	2	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	1	5	4	4	4	
SARS-CoV-2	0	0	0	1	0	0	0	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	1	
RSウイルスB	0	0	1	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	1	0	
ライノ/エンテロウイルス	1	3	1	1	0	2	1	
アデノウイルス	0	1	0	0	0	0	1	
不検出	2	5	4	0	2	2	1	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	11

※第7週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザウイルス4及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第8週に提出された検体のうち、RSウイルスA及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～8週)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第9週）

- ・結核(二類感染症)：八戸市1人、西北1人 (2026年計： 13人)
- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症(五類感染症)：中南1人 (2026年計： 3人)
- ・侵襲性肺炎球菌感染症(五類感染症)：中南1人 (2026年計： 5人)
- ・百日咳(五類感染症)：八戸市1人 (2026年計： 8人)

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026年第6週～2026年第9週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
6	侵襲性肺炎球菌感染症1人		結核2人 百日咳1人			
7	梅毒1人 百日咳1人	腸管出血性大腸菌感染症1人 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人 侵襲性インフルエンザ菌感染症1人	後天性免疫不全症候群1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	
8	A型肝炎1人		百日咳1人			
9		劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人	結核1人 百日咳1人	結核1人		

第8週に青森市保健所管内でA型肝炎1人の届出がありましたので追加しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第8週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	1921	10	247	4	4	104	19	1	17	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
累積報告数	4	31	16	3	3	268	2	65	27	149
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症
累積報告数	6	71	3	19	247	125	5	77	12	490
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
累積報告数	108	1442	29	13	10	1580	1	71	5	

青森県（2026年第1週～第9週までの累計）

分類	二類	三類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	百日咳
累積報告数	13	3	1	3	1	2	5	5	1	8

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第9週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第9週	報告なし		

2026年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月					2月					3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)	
		1-5週	6週	7週	8週	9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週							
介護・老人福祉関係施設	件数	2	1	0	1	0																	4
	発症者数	37	26	0	18	0																	
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	0	0	0																	4
	発症者数	92	0	0	0	0																	92
障がい関係施設	件数	1	0	0	0	0																	1
	発症者数	20	0	0	0	0																	20
その他施設	件数	0	0	0	0	0																	0
	発症者数	0	0	0	0	0																	0
計(月別)	件数	7	2																				9
	発症者数	149	44																				

感染症の窓

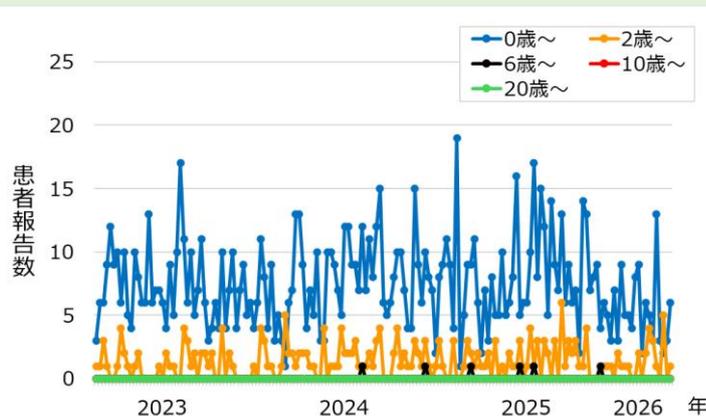
突発性発しんは、ヒトヘルペスウイルス6型または7型に感染することによって発症します。

乳幼児期、特に6～18か月の間に罹患することが多く、2～3歳頃までにほとんどの小児が感染すると言われています。青森県内の小児科定点医療機関から報告された患者報告数の推移においても、2歳未満で報告が多くなっています(図)。

症状は、突然38～40℃の高熱となり、それが3日間ほど続いた後、平熱近くに帰り、しばらくしてからお腹や背中を中心に発しんが出て、全身に広がります。発熱初期に熱性けいれんを合併することがあり、まれに、脳炎、脳症、劇症肝炎など重篤な合併症をおこすことがあるため、注意が必要です。

通常、予後良好のため、対症療法にて経過観察するのみで、特に予防が問題となることはありません。なお、突発性発しんは、一度罹患すると免疫ができます(終生免疫)が、6型、7型の2種類のウイルスにより二度感染することがあります。一度感染し、また感染して同じような症状であっても、重症化する可能性もありますので、早めに医療機関を受診しましょう。また、発熱中は周囲の子どもに感染することがあるので注意しましょう。

突発性発しん



図：青森県における年齢階級別突発性発しん患者報告数推移（2023年～2026年第9週）

👉 [突発性発疹（国立感染症研究所 HP）](#)

